

報告事項

2016(平成 28)年度 事業計画

認定特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

(2016 年度の重点事業)

- ① ワシントン条約 CoP17 の準備と参加
- ② 生物多様性保全の行動につなげる普及に関する研究
- ③ 種の保存法改正に向けた情報収集と他団体との連携による提言

1. 研究会運営

(1) 「公開理論研究会」

6 月上旬に総会と同日開催 話題提供：並木美砂子理事 動物園のあり方（仮）

(2) 上記を会報に掲載

2. 調査提言

(1) ワシントン条約、生物多様性条約など国際会議および世界の野生生物の状況を情報収集

ワシントン条約 CoP17 (2016 年 10 月南ア) に向け、日本に関係する附属書提案種の情報収集を行い、情報発信を行う。また生物多様性条約、国連持続可能な開発目標 (SDGs) との連携にも着目し、「持続可能な利用」について情報を収集し、国内での普及啓発や提言につなげる。とくに 2016 年夏からは種の保存法の見直しが行われるため、他団体と連携して提言活動を行う。

(2) 生物多様性保全の行動につなげる普及に関する研究 (新規)

JWCS 設立以来のテーマである「持続可能な利用」を中心に、生物多様性保全の行動につなげる普及について研究を行う。「開発か自然保護か」から「地球の許容範囲の中で暮らす」へ国際的な政策が舵を切ったのは、危機的な地球の状況がミレニアム生態系評価などの研究で明らかになったためであるという。しかし日本では「持続可能な利用」や、それを政策につなげる NGO の活動やしぐみについて、理解や情報が少ないように思われる。

そこで以下の事業を 3 年計画で行う。

- ① 日本においてどのような情報が不足し、また誤解されているのかを分析
- ② 論文やヒアリングなどで具体的な事例を収集し報告書を作成
- ③ 報告書を基にした普及ツールを作成 (以下次年度以降)
- ④ 消費者と生産者の両方に影響力を持つ生協など消費者団体や企業の CSR 担当者、地域おこし団体、環境 NGO/NPO にツールの活用を促進

①～②の研究部分では、2012～2014 年度に実施した生物多様性愛知目標 3 (奨励措置改革) の研究で浮かび上がった政策統合、合意形成、科学的知見の政策への反映などの視点を取り込む。

そして国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB - J) が普及している「MY 行動宣言 5 つのア

クシオン」、2015年に国連で採択され政策への位置づけの検討が始まった「国連持続可能な開発目標（SDGs）」、日本の課題である地域活性化と関連づけて、研究成果を普及しやすくする。

【(1)(2)の事業を合わせて地球環境基金に新規採択】

3. 生息地支援

JX エネルギー（ENEOS）からの寄付により、ゴリラの生息地で保全活動を行っている WCS コンゴとポレポレ基金を支援（2016年8月まで更新されれば継続5年目）

4. 普及啓発

(1) 調査提言事業および翻訳ボランティアのご協力により得た、消費と絶滅に関する情報をウェブサイト、印刷物等で情報発信する。英訳による発信も行う

(2) セミナーの開催

アンナ・ネカリス博士（オックスフォード・ブルックス大学）によるセミナー（2～3回予定）

【LUSH 採択事業】

(3) IUCN 日本委員会にじゅうまるプロジェクトの登録団体としてイベントに協力

7月 IUCN 親善大使のイルカさんコンサートでブース展示

(4) 講師派遣およびパネルや動画などの貸し出し

(5) メールマガジン、ウェブサイトなど電子媒体による発信を継続

5. 国際会議参画

(1) IUCN、SSN、CBD アライアンスなど国際団体のメンバーとして情報収集と情報発信

(2) IUCN 世界自然保護会議（2016年9月1日～10日 ワイキキ）に参加

【地球環境基金採択事業】

(3) ワシントン条約 CoP17（2016年9月24日～10月5日 ヨハネスブルグ）に参加。

【地球環境基金採択事業】

(4) ワシントン条約 CoP17 帰国後（10月末）、報告会を開催。

(5) 生物多様性条約 COP13（12月4日～17日 カンクン）

会議内容によっては参加取りやめを検討する。

6. 会報発行

年3回発行（1号発行につき/印刷8000円/デザイン3万円/発送82円×150部）

7. NPO 運営

(1) 事務局員2名（週3相当）、1名（週1相当）ボランティア2名で運営する。

(2) 劇団前進座によるチャリティー観劇会（5月）、IUCN 親善大使イルカさんコンサート（7月）などの外部セクターとの連携や、gooddo などウェブサイトを活用した寄付企画を充実させる。

以上